

〔書言字考節用集時候〕アサナク又云朝々

〔萬葉集古今相聞往來歌類〕寄物陳思

大海之荒磯之渚鳥朝名旦名見卷欲乎不所見公可問

〔萬葉集二十三月○天平勝三日檢校防人勅使并兵部使人等同集飲宴作歌、
阿佐奈佐奈安我流比婆理爾奈里氏之可美也古爾由伎氏波夜加弊里許牟、

右一首勅使紫微大弼安倍沙美麿朝臣、

〔萬葉集抄六〕和語の習重點を云には後にはかみの字を略する也たとへばきらくといはん
とてはきら、といひはらくといはんとてははら、といひとをくといはむとてはとを
をなんど云たぐひ也又今の人のかさなくと云事をあさなさなどいへる也、

〔書言字考節用集時候〕アサク又云朝々

旦開萬葉又奥儀抄、朝明萬葉

〔萬葉集八秋雜歌〕安貴王歌一首

立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手本寒母、

〔源氏物語二十八〕中將の朝けのすがたはきよげなりな略○下

〔新撰字鏡〕日暁芳昧布佩二反去、旭許玉反、旦日欲除也、日暮各音、阿加止支、

〔類聚名義抄二〕日暁呼鳥反、アシタアシタツキ

〔段注說文解字七上〕曉明也、此亦謂旦也、俗云天曉是也、从日堯聲、

〔類聚名義抄二〕日暁音署、アカツキアカツキアキラカ

〔下學集時節〕上暁曙義同字

〔書言字考節用集時候〕厥明並則已曉也、質明代醉厥明質明

質明見曉廣韵

五更萬葉

旭時萬葉

〔八雲御抄三上〕時節暁亥のめ凌晨と山かつら曉也

ありあけあけくれ曉をば萬にあか